



くすのき

学校のシンボル
くすの木

「読書の秋」・・・本は心の栄養

校長 菊地 勇

秋の日は「つるべ落とし」といいますが、最近はずっかり日没も早くなり、秋が深まってきました。釣瓶（つるべ）とは、井戸で水をくみ上げるために使われる道具のことで、桶を縄の先に取り付けて、滑車に掛けて使用します。このつるべが井戸の中に素早く落ちる様子を「秋の日暮れ」に例えて「秋の日はつるべ落とし」と言われています。秋は、日中時間が減って、さらに、日没時刻も早まることで秋は日が暮れるのが早いと感じるようです。また、秋は、夏に比べて薄明（日の入り後しばらく暗くならない状態。上空の大気が太陽光を拡散しているためにおこる）の継続時間が短くなるため、急に暗く感じるのが原因です。帰宅時刻の約束は、暗くなる前に自宅に帰るよう各家庭で設定してください。

2学期も後半に入りました。先日の運動会は、みんなが全力で取り組み、スローガンのように、「全力で楽しむ」ことができていました。子どもたちの活躍の様子を多くの保護者の皆様、地域の皆様が見に来てくださいました。ありがとうございました。

10月23日には第2回学校運営協議会を実施しました。今回は、子どもたちが「ゆたかなかわり合い」（学校教育目標）を育むために、地域や家庭、学校ができることを話し合いました。①外部講師や地域人材を効果的に活用し、地域との関係を深めながら授業の充実を図る②ノーテレビノーゲームデーを活用し、家族との会話を増やすように声掛け③地域行事への参加など案が出ました。

また、現在、教員数が2名少ない状態（代員が配置されていない）で、土合小学校の教員の負担が大きい状況なので、負担を軽減していくことがよりよい指導につながるのではとの意見が出されました。具体的には、⑦教員数が不足している状況なので、ボランティアを依頼し保護者の協力を得る⑧登校時刻の適正化（現在、登校時刻が早すぎて、勤務時間開始前の教職員の負担増）などができました。出された意見の中で、できることを進めていき、保護者の皆様や地域の皆様の協力をいただきながら、学校教育目標の実現を目指していきたいと思えます。

さて、今月は、音楽会があります。この音楽会を通して、子どもたちのゆたかなかわり合いを育む機会となればと思います。休み時間には、音楽会に向けて練習に励んでいる子どもたちがたくさんいます。本番には、練習の成果が発揮されるように願っています。引き続き子どもたちの頑張っている姿をご覧いただき声援をいただければ幸いです。

「〇〇の秋」というと、勉強や芸術、スポーツ、食欲・・・そして「読書の秋」でしょうか？10月27日～11月9日までの2週間は、「秋の読書週間」です。昭和22年から始まった「読書週間」も今年で77回目。すっかり、行事として定着しています。活字離れとか、本離れとも言われたりしますが・・・

本を読むことは、限りのない空間や時間を自由に旅することなのだと思います。そして、そこには、限りのない「出会い」が待っています。その出会いは、「栄養」となって自分自身の心を大きく成長させてくれるものです。そこに読書の魅力があるのでしょう。

土合小学校では、11月は「読書月間」と定めています。各学年では、発達段階に応じて「おすすめの本」を紹介し合ったり、書評を書いてみたり、おはなし〇〇をつくって紹介しあったり・・・と様々な取組を行います。また、「〇〇先生のおすすめの本」コーナーも予定されています。興味を持った本（面白そうだな・読んでみたいなど自分が感じた本）と出会ったら、ぜひ、読んでみましょう。

ゲームやSNS、動画配信サービスの浸透は、これらでは感じられない楽しい読書の時間を奪っているのかもしれませんが、しかし、読書の楽しさを味わうと、たまらない魅力に夢中になるはずですよ。よかったら、ノーテレビノーゲームデー（毎月23日）を家族で設定してみませんか？家族みんなで読書の時間なんていいかもしれませんよ。「読書は心の食事」という言葉も聞いたことがあります。家族みんなで、読書を楽しみませんか？今日は、読書で「どこへ行こうか？」「どの時代に行こうか？」「何と出会うかな？」・・・読書の旅を楽しんでみましょう。